

留学途中経過報告書【10月】

10月:留学1ヶ月経過

→初めて1ヶ月以上の滞在に突入。生活にも慣れたはずなのでどこかへ旅行。

(年間計画書より)

①学校全体の状況

- ・ 一般学生の軍事訓練も終了し、校内の雰囲気は安定してきた
- ・ 以前寮のすぐ近くにあったバスケットコートが新しく整備された
- ・ 法律学部とその付近も現在工事が進行中
- ・ 9/14(日)は中秋節でお休み。その振り替えて15(月)もお休みになった。
- ・ 9/29(月)からの一週間は国慶節でお休み。その代わりに27・28は土日だが通常通りの授業があった。中身は月・火曜日の内容。

②授業・学習状況

- ・ クラスのメンバーがだいたい決定した。授業によるが、全部で日本人は私を含め6人、韓国人9人、アメリカ人4人、フランス人2人、ドイツ人2人、オーストラリア、メキシコ、ブラジル1人。
- ・ 授業は積極的に質問や意見のしやすく、雰囲気が非常に良い。
- ・ しかし、体調を崩す人が最近とても多く、空席が目立つこともある
- ・ そして時間がたつに連れて授業に来なくなった人もいる。聞いたところによると最後は本当に少なくなるようだ。
- ・ 9/28(日)にクラスでdiscussionがあった。反対側と賛成側各3人、司会1人。私は反対側として参加。議題はお昼寝にもたらず効果について。結果は賛成側の勝利だった。
- ・ 午後の授業は選択で、私が選択したのは発音基礎と初級読書のクラス
- ・ 会話力:言いたいことは伝わる。しかし短文が中心で何かを説明することが難しい。そして頭の中に言いたいことが浮かんでも、その単語がわからないため知っている単語を駆使して言うことがほとんど。単語が出てくる場合でもたくさん言いたいことがあると、口から出るときに語順や声調が狂う。現在の目標は語幹を増やして会話に役立てることと、長く話すことに慣れて混乱しないようにすること。
- ・ 聴解力:特に会話においては、おそらく私は文脈から想像することが得意なので、知らない単語が出てきても音と前後の文脈から漢字が想像しやすい。自分で話すよりも相手の話を聞くことの方が自身で成長を感じられる。また、中国人の話すフレーズを自分も真似することで会話力に繋がっている。現在の目標は想像でなく確実にわかる言葉を増やしてゆくこと。
- ・ 文章力:文章にするときが一番困るのは接続詞。同じものを繰り返し使ってまったり、語幹の少なさゆえに書くことのできる内容が飛び飛びになりがち。しかし書くことがすきという点で苦痛でないのが自分のいいところだと思う。目標としては11月の作文コンテストに向けて文章の練習をしたい。

③私生活

留学途中経過報告書【10月】

- ・ 健康状態は良好
- ・ 留学に関する各種手続きが終了
- ・ 寮にはさらにクラスの友人が引っ越して来るなど、特に私の住む 3 階にはクラスメイトが多い。
- ・ クラスメイトの紹介してくれた中国人の友人と相互学習を開始
- ・ 留学生のバドミントン部に入部。活動は週 2 回 2~3 時間程度だが、活動日意外にも体育館を借りて練習している
- ・ 以前から寮に住んでいる友人に中国独特の水の買い方・節電の方法などを教えてもらった。水は来週から早速試す予定。
- ・ 蘇州に来ていた先輩のフィールドワークを手伝って、露店の人々にインタビュー
- ・ 蘇州大学と宮崎公立大学に関わる人たちが集まっての食事会に招待していただいた
- ・ クラスメイトのお兄さんが蘇州に遊びに来たので一緒に食事したり部屋に招待したりした。
- ・ 中秋節の 3 連休には無錫に 1 泊 2 日で旅行。また、月餅というお菓子を友人などに贈る習慣があるのだが、ありがたいことに様々な中国の友人からたくさん月餅をいただいた。
- ・ 国慶節には黄山に 2 泊 3 日で旅行。
- ・ 高校時代の友人と同じ大学に通う先輩が 3 ヶ月の短期留学に来た。宮崎公立大学と同じく蘇州大学と提携を結んでいるらしい

④その他

- ・ 10 月に入ると長袖が一般的なり、朝晩はジャケットが必要なほど。蘇州の秋は短く、すぐに冬が来るらしい
- ・ 中国の牛乳ブランドの安全問題について、校内スーパーに問題の原因や今後の安全を説明するチラシが置かれた。

⑤感想

留学が始まってもうすぐ 2 ヶ月が過ぎようとしている。こちらに来て毎日日記をつけているのだが、本当に充実した日々を送ることができ、毎日が発見とカルチャーショックの連続で、それに関わって自分のこと、また日本のことも考える機会が非常に増えた。そんな中で私が最近思うことは、留学してよかったということだ。語学においてではなく、人として変わることができる気がするからだ。

自分で想像していた以上に、勉強ではないことをたくさん学ぶことができるのだ。まだ 2 ヶ月も経たないが、既にこう思うことができたことが嬉しい。何かは自分でもよくわからない、そして目にも見えないが、常に感じることだ。それは人としてこれからどう生きてゆくかを考える術になる。上手く言葉にできないが、広く人と関わることから生まれてくると思う。留学とは、ある意味孤独だ。例えば私は同じ大学から一緒に来ている友人もいて、さらには以前からの中国人の友人も蘇州大学の学生で、非常に恵まれている身だと思う。そんな私でさえ日本で過ごしていた時のように本当に心を許せる人が近くにいる訳ではない、と孤独を感じるのだ。しかし他の留学生はほとんどが自分ひとりで留学に来て、誰も知らないゼロからのスタートを切るのである。そのため留学生達は人に優しくなれる気がする。私は自分に優しさが足りないと今までずっと思ってきた。私は今まで人にどれくらい優しくできただろう？人に冷たく当

留学途中経過報告書【10月】

たる度に反省して、しかし何度も同じ事を繰り返していた。今までも違う環境に飛び込んだことはあった。高校も大学も私はいつも minority な道を選んできたからだ。しかし今回の新しい環境には言葉と文化の壁があるのだ。それもまた違う方面から孤独としてさらに上塗りされていく。留学生というのは、同じ特殊な孤独を味わう仲間として協力、団結しているのだ。そのため黒人でも白人でも黄色人でも、年齢が離れていても“友達”になることができる。そして困った時には助け合う。困ったと自分から言わなくてもアドバイスをくれたり、心配して最近の調子を聞いてくれたりする。だから自分も優しくなれるのだ。あまりに人の優しさを感じる事が多くて、感覚がにぶってしまいそうな程だ。もちろんお互いに留学生なので伝わる言葉は多くない。そしてゆっくりだ。しかし、これは相手が中国人の時にも言えることだが、お互いの伝えたい・聞きたいという気持ちがあれば、相手には必ず伝わる。伝わり方ははっきりしたものではないし、微妙なニュアンスも飾り言葉もない。まっすぐで、でもぼんやりとしていて、掴んでくれる場所も人によって違う。しかし例えるなら、それだけ話し手は相手の掴む場所をたくさん準備するという優しさを持っており、聞き手は自分の掴める場所を探すことに手を抜かず、また掴める場所は全て掴み、絶対に離さないという優しさを持っている。このように抽象的にしか説明できないが、人は淋しいと優しくなることができ、また優しくしてもらうと人にも優しくできるのだ、それも極自然に。私にとって、中国の友人はもちろんであるが、同じ留学仲間は本当に大切な暖かい存在である。本当は“優しさ”というような簡単な言葉では表すことができない、それほど私にとっては大きいことなのだ。逆に友人達にとって私も、こうでありたい。

1. 学習成果について

相互学習の探す予定であったが、思っていたより難しくまだ実現に至っていない。相互学習とは中国人学生とお互いの言語を教えあう学習方法のことである。私は研究生との相互学習を希望していたが、研究生よりも大学生、特に1・2年生の方が日本人との相互学習をしたいと望んでいるという話を聞いたので、大学生にも声をかけてみようと思う。

また、相互学習以外にもネイティブスピーカーと積極的に話すことにも取り組んでいる。具体的には先生や宮崎出会った留学生や研修生、クラスメイトを介して知り合った中国人である。先生とは授業中の会話はもちろん、休み時間に授業内容以外の話をしたりしている。先生と話す時は私が間違えた発音を正しく言い直してもらえるので、授業時間に関わらず常に良い勉強となっている。留学生や研修生は学内・学外ですれ違うたびに声をかけてくれる。日本語学科の学生の語学力は素晴らしく、日本語での会話になってしまうこともある。しかし、時間を経るごとに私の中国語の語彙力も増えてきているので、最近は極力中国語で会話をしようとして努力をしている。寮やクラスの友達を介して知り合った中国人の中には、当然日本語を学習していない人もいる。英語や韓国語を学習していて、中国に来ている外国人と交流を持ちたいという中国人学生が多い。そのため、時には中国語のみで会話をしなければならない。中国語で言いたいことをうまく伝えられない時は苦しいが、一方で中国語学習の励みにもなっている。

会話をしていく中で、語威力がまだまだ足りないことを痛感している。今後は、授業中により多くの発言を行うための語彙力を増やすことに努めようと考えている。

2. 生活状況について

9月29日から10月5日までの一週間は国慶節のため、大学は休校となった。10月1日の国慶節は中華人民共和国の建国記念日である。この期間は中国語で「十一黄金周」とも呼ばれる大型連休となり、多くの学校や会社が休みとなる。近年法改正があり、この「十一黄金周」が春節と並んで最も長期の休みとなっていると聞いた。このため、各観光地は人で大変混雑する。

この連休を利用し、私は安徽省にある黄山へ二泊三日の旅行に出かけた。黄山はユネスコの世界遺産に自然遺産・文化遺産として登録されている有名な山である。また、近くには同じく世界遺産に登録されている「宏村」という村落を訪れた。今回はこの二の世界遺産を含む黄山市近辺の観光地を巡る中国の現地ツアーに参加した。現地ツアーの特徴は良くも悪くも全て中国語での対応となる点である。まず、ツアーガイドの説明が聞き取れなければ、集合時間や集合場所など大切な情報を聞き逃してしまう。その上観光スポットでの解説も全く意味を成さない。時間と場所などは、ツアーガイドに直接確認すればよいが、解説をもう一度頼むことは難しい。このため、あらかじめ

め訪れる場所をチェックしておく必要があると思った。また、自分が今まで培ってきた知識を活用することも求められた。この二点が少し生かされたおかげで、ツアーガイドの解説も多少聞き取ることが出来た。例えば、黄山での「連理松」という松の説明では「比翼連理」という言葉を知っていれば、中身を推測でき格段に聞き取りやすくなる。また、民居の説明ではゼミで学んだ知識を思い出し、内容及び解説されるポイントを推測することが出来た。また、今回は前もって蘇州で購入した民俗に関する本にも目を通していたので、本からの知識も参考になった。中国人と同じツアーに参加する時は、前もって準備をして出かけることで、訪れた場所について更に深く理解することができると感じた。

10月から11月にかけては、比較的過ごしやすい時期となるので多くの場所に出かけ、多くの中国人と話をすることを心がけたい。特に、11月23日にはHSKがあるので、リスニングの力をつけるためにも中国語を聴く機会を積極的に作っていききたい。